

事例 ● 008 渡辺電気株式会社(北海道北見市)

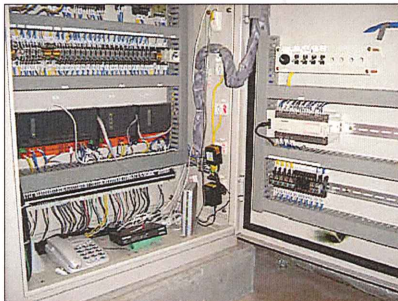
作成中

平成20年度
新分野進出・経営革新モデル
川上分野・川下分野遠隔監視システムの導入と提案、
メンテナンス業務への進出

ビルの遠隔管理システムは、通信回線を利用して、ビルの設備機器の運転状況や防犯防災上の異常を24時間監視するものだ。渡辺電気(株)が導入する最新のシステムは、通常のインターネット回線が使えるうえ、ランニングコストも抑えるなど導入効果が高い。モデル事業への選定を機に、北海道での普及を目指す。



操作パネル展示モデル。ビルの設備機器を遠隔で24時間監視できると共に、電力の負荷も測定できる。



ボイラー制御盤内遠隔操作機器取付状況

渡辺電気株式会社

代表者 ● 渡邊 一彦(代表取締役)

所在地 ● 北海道北見市

資本金 ● 1,000万円

従業員数 ● 4名

URL ● -

事業内容 ● 昭和53年に創業、55年設立。電気工事業、消防施設業。平成元年から計装工事と自動制御を手がけ、現在では全体売上高の4割を占める。



1. 事業の背景と動機

20年の実績とノウハウが役立つ
新規事業を知人から紹介

昭和50年に設立された同社は、施設の空調設備に伴う自動制御の計装工事を業務の中心としてきた。地域でのシェアは70%程度になったが、電気工事は減る一方で、一人親方を含めた電気工事業者が飽和状態となっている。今後の展開を考えていたところ、知人から(株)大阪テクノクラートエンジニアリングを紹介された。同社の遠隔監視システムの営業、施工、維持・管理には、当社の計装工事のノウハウや許可、資格が役立つ。

2. 進出時の苦労やその対応

融資に苦労するが商工会議所の
協力で保証協会の信用枠を拡大

今回の新事業展開に向け、低利で資金を調達する必要があったが、この点で苦労した。しかし、熱心に説明することで商工会議所の協力を得、忌憚のない指摘やアドバイスを受けた。最終的に信用保証協会の信用枠を広げてもらうことができ、資金面での不安が解消された。

3. 新事業の概要

ビル管理を合理化する
画期的システムを導入、運営

本事業は、(株)大阪テクノクラートエンジニアリングの遠隔監視システムを、北海道の東部において独占的に営業、施工およびメンテナンス管理するものである。

遠隔監視システムはインターネット回線等を使ってマンション、ホテル、各種施設など物件ごとに給湯、暖房、融雪等のデータを収集し、離れた場所から管理するシステム。トラブルの迅速な解決やランニングコスト削減ができる。このシステムの導入に向けた営業、メンテナンスと維持管理、点検を行う。

4. 事業の推進体制

管理物件増にともない別会社化も

営業担当を1名雇用、メンテナンスにはアルバイトを1名雇用了。管理物件の増加にとまって社員を増員し、将来はメンテナンス部門の別会社設立も考えている。(株)大阪テクノクラートエンジニアリングの新システムの開発に関連し、地元の北見工業大学との連携が予想される。

5. 差別化戦略・競争戦略

モニタリングによって負荷を特定し
ランニングコストを削減

北海道内で当システムを行っているのは、同社を含め2社しかない。全国的には大企業による類似システムがあるが、基本設計が10年ほど前のものが多い。当システムは、モニタリングによって使用者のデータを収集して負荷を特定、月々の電力使用料等を軽減できる。その施設ごとに設計、施工可能で、顧客先に適したランニングコスト削減ができる。

6. 成果と課題

受け身の受注から攻めの
提案営業へ、ノウハウ取得が課題

モデル事業に選ばれたことでビジネスチャンスが広がると期待している。毎月のメンテナンス業務は確実な売上となり、経営の安定が図れる。またこれまでは受け身の受注が主だったが、これからは提案営業ができる。提案営業に時間が割けるよう、増員も考える。そのためには営業やメンテナンスについて、ノウハウ取得に努め、実績を積んでいく。受注と同時に電気工事、計装工事が生じるので本業の売上増にもつながる。